

教會堂と
情操の修
養

宗教戰と
マホメツ
トの勝利

メツカと
中心靈場

アルラーの一神に歸向せしめんと勉めたり。即ちメヂナには、純乎たる神政々府を成立し、マホメツトは實に其の首長と爲れり。斯くて政教共に、人民に適する様に改造せしが故に、大に時人の尊敬を博するに至りぬ。

其後マホメツトは、猶太教會等を參酌して、回々教の教會堂を建設せり。其の教會堂は、禮拜所に非ず、寧ろ諸人に就て、宗教的情操を修養せしむるの會堂と爲せり。回々教の各信者は、人種異なるも、信者同胞たるを信じ、相互親交を厚うし、全く宗教上の信仰に依て、風俗習慣を一變しぬ。因て信者は、未信者に對し、有らん限りの力を以て抗爭するを神に對する義務と爲し、異教徒を撲滅せん爲め戰死するをも辭せざりき。

以來マホメツトは、右手に殺人劍を提げ、左手に哥蘭經を捧げて、メヂナの教徒を率ゐ、久しく猶太教徒及基督教徒と、激烈なる鬪争を爲し、遂にメヂナに於ける、猶太人の勢力を全滅し、又基督教の勢力を、亞刺比亞以外に放逐するに至り、次でメツカ征伐の事起りぬ。

恰も旭日天に中するの勢を以て、亞刺比亞半島を席捲し、メツカ市は全く渠の手